

# 学生が動かす大学のダイバーシティ

## ～オールジェンダートイレの実現に向けた「SOGI いろ」の挑戦～

環境人間学部 環境人間学科

教授 <sup>いぬい みき</sup> 乾 美紀、4 回生◎<sup>なかおりゆうき</sup> 中尾 瑠希、3 回生<sup>いけだこうだい</sup> 池田康大、<sup>みやぎ</sup> 宮城ひなた

### キーワード

ジェンダー、SOGI、ダイバーシティ、キャンパスづくり

### 研究概要

兵庫県立大学は、他大学に比べ多文化共生の視点、性の多様性などのダイバーシティ推進への対応がまだ十分に整っていない状況である。実際に、本学ダイバーシティ推進室が実施し、学生及び教職員 716 名から回答を得たアンケートでは、トイレや健康診断に関してジェンダーの側面からの不安・問題に関する回答が計 40 件得られた。また、大学ができる支援について自由記述で回答を得た結果、トイレの改善に関する意見が 42 件にものぼった。

そこで、ジェンダー問題に関心を持った環境人間学部乾ゼミ、竹端ゼミ所属の 3 回生 9 名、4 回生 4 名の計 13 名が学生団体「SOGI いろ」を立ち上げた。団体名は、性的指向（好きになる性）、性自認（こころの性）の英訳のアルファベットの頭文字をとった SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) と、性の多様性を象徴する色である虹いろを掛け合わせて名付けたものである。

本団体は、ダイバーシティ推進の中でも SOGI に絞り、誰もが過ごしやすいキャンパスづくりを検討すること、学生中心に性の多様性の理解を促進することを目的としている。

まず、上記活動の一環として、学内のトイレに関する問題に焦点を当てることにした。具体的には、全学部のトイレを調査し、トイレ全体に関する問題箇所の写真を撮影し、学内マップにまとめる作業を行った。次に、本学学生を対象に学内トイレの利用に関する課題や要望について、ジェンダーの視点から独自アンケートを作成し 226 名から回答を得た。回答として「学内のトイレサインが男女に分けられてしまっているのがジェンダーマイノリティの人はどうすればいいか」という課題や「急に生理になった時のために、生理用品を設置して欲しい(高校のトイレには設置されていた)」といった要望が多数集まった。また SOGI いろは、SOGI に関する対応に早くから取り組んでいた龍谷大学と大阪大学を訪問し、オールジェンダートイレ、生理用品の設置についてのインタビューを行った。これらの結果を基にもとに新しいデザインを検討し、誰もが使いやすいトイレの実現を目指す。



新しいトイレサイン（ユニバーサルトイレ）候補作品

### アピールポイント

今後も SOGI いろは、学生が主体となって性の多様性の理解を促進するために取り組みを行う。直近の予定として、新しくデザインしたトイレサイン、生理用品の設置、そして 10 月 24 日～10 月 28 日にかけて SOGI ウィークを実施する。

SOGI ウィークでは、学生が SOGI に関わることができる取り組みを 5 日間継続して実施する予定である。具体的には、特定非営利活動法人 MixRainbow に講演を依頼し、LGBTQ の当事者の方と学生が交流できる機会を持つ。また、NPO 法人虹色ダイバーシティには、SOGI に関する書籍、啓発教材などが積まれたワンボックスカーで大学訪問してもらったり、学内で LGBTQ 関連のディズニー映画を上映してもらう予定である。これらの取り組みを実施することで、学生がジェンダー問題に意識を向けるきっかけになることを目指す。